

統計ニュース

〈報道各紙掲載記事より抜粋〉

《国内・国際》

1/1 人口減 過去最大20万人

2011年の日本人の出生数から死亡者数を引いた「自然増減数」はマイナス20万4千人で、過去最大の減少となる見込みであることが31日、厚生労働省の「人口動態統計の年間推計」で分かった。生まれた赤ちゃんは2010年(確定数)より1万4千人少ない105万7千人、死亡者数は6万4千人多い126万1千人。出生数は戦後に統計を取り始めた1947年以降で最少、死亡者数は最多。2007年以降5年連続の人口減で2010年の約12万5千人減から1.5倍以上の減となる。

1/1 新成人 122万人(ピーク1970年の半数を割る)

2012年1月1日現在で20歳の新成人は122万人で、第1次ベビーブーム世代による新成人のピークに当たる1970年(246万人)の半数を初めて下回ったことが31日、総務省の人口推計で分かった。辰年生まれの年男は496万人、年女は526人で計1022万人。新成人は男性62万人、女性60万人。新成人の人口は2011年から2万人減少し、5年連続で過去最少を更新した。

1/20 生活保護世帯 150万世帯に

厚生労働省は19日、全国で生活保護を受給している世帯が昨年10月時点で150万2320世帯に上がり、過去最多を更新したと発表した。前月比4991世帯の増加だった。受給者数も前月比6028人増で207万1924人となった。昨年7月時点で60年ぶりに最多を更新して以降、過去最多の更新が続いている。世帯類型別の内訳では、最も多いのは「高齢者世帯」63万5367世帯、続いて「傷病者世帯」32万1712世帯。次いで働ける年齢層を含む「その他世帯」が25万4841世帯だった。

1/30 2060年 人口 高齢者が4割

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は30日、2060年までの日本の将来推計人口を公表した。2010年に1億2806万人だった日本の総人口は2048年に10億人を割り、2060年には今より3割減の8674万人になると予測している。人口に占める65歳以上の割合(高齢化率)は4割に達し、超高齢化の進行に歯止めは掛かりそうにない。

《県内》

1/6 昨年の県内交通死 最少の74人

2011年の県内の交通事故死者数が74人で、統計の残る1951年以降最少だったことが分かった。県警は2010年から「はみ出し危険」などと表示するセンサー式の電光掲示板を県内7市に設置。昨年4月には、事故の直前速度を下げる対策として、タクシーなどに制限速度でただ、65歳以上の高齢者の交通事故死者数は昨年より2人増えて43人となった。また、高齢ドライバーによる死者数も4人増の20人となった。県警は「信号機の新設や、戸別訪問による交通安全指導の強化などで、高齢者が絡む事故を減らしたい」としている。

1/10 県内110番 3年ぶりに減

1月10日は「110番の日」昨年の山口県内の110番受理件数は9万5348件(前年比2234件減)と3年ぶりに減少したことが、県警通信司令課のまとめで分かった。事件事故が減ったほか、緊急時以外の通報の減少が主な要因とみられる。同課によると、昨年の110番受理件数は1日平均261.5件。通報内容は、交通事故や違反車両の発見など交通関係が33%、刑法犯の通報は3%。「部屋にツバメが入ってきた」などの緊急ではない相談や要望は3万383件と全体の3分の1を占めるが、前年に比べ248件減った。一方で、受理件数には含まれない無言電話やいたずら電話などの110番通報は、3万7054件と前年に比べ、4054件も増えた。

1/25 新卒者 就職内定率 なお低迷

山口労働局は24日、今年3月の新卒者の就職内定率(昨年12月現在)を発表した。大学生の就職内定率は63.3%で前年同期を1.7ポイント下回り、この時期では過去5年間で2009年度に次いで低かった。男女別では、男子が61.9%で前年同期に比べ0.4ポイント増えたが、女子は64.9%で同3.9ポイント低下した。同労働局は、厳しい就職環境に対する学生の理解が不十分で、希望する職種と、企業の求人内容のミスマッチで内定に結びつかないケースが多く、特に女子学生が苦戦しているという。一方、高校生の就職内定率は、85.5%で前年同期比0.9ポイント増。県内企業の求人数は2842社と5.1%増えているが、県外企業の求人数は、東日本大震災の影響などで1439社(同34.7%減)と少なく、依然として厳しい状況に変わりない。